2023年度　LCA国際小学校　学校自己評価

学校教育目標	重点目標（中・長期目標）	総　合　評　価
◆社会の一員として個性を生かして、社会に貢献できる人間の育成 ◆世界を舞台に活躍できる人間の育成 ◆生きることの素晴らしさを知った人間の育成	◆グローバルな視野をもち、自己肯定感、Well-beingが高い児童を育成するための教育のさらなる向上	英語の新カリキュラム（2021より改訂）は軌道に乗りつつあり、グローバルな視野を持って世界で活躍するための英語教育の質は向上している。また新たに児童支援コーディネーターを置くことで、様々な個性や特性に応じたきめ細かい対応ができる体制を整えている。 5月にコロナによる特別対応が終わり、従来通りの体験活動を復活させることができたことに加えて、トランペット奏者や琴奏者を招いたミニコンサートも再開し、本物の芸術化に触れる経験も増やすことができた。地域連携も継続し、今年度は相模原市の広報で取り上げてもらう機会もあった。

今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
児童がWell-beingを高めるための物の見方や考え方などを知る機会を増やす。	キャンプやパフォーマンスデー、スキーなど全ての学校行事を通常通りのかたちで再開し、子どもたちが多様な体験をする機会を復活させることができた。また、今後もWell-beingについての教員研修を継続し、収集したデータを活用した学校運営を模索していきたい。		○			それぞれの体験活動の意義や目的について、改めて検討し、これからの時代に求められる教育を実現していけるよう新しい挑戦を続けていきたい。学校行事に限らず、多様な形で社会と接点を持ち、教育活動を展開していきたい。
多様な個性の児童に対応できる教育体制を確立する。	児童支援コーディネーターを中心にスクールカウンセラーをはじめ関係各署と密な連携をして個に応じた支援の充実を図った。外部との連携も強化し、市の青少年相談センター、発達支援の専門家、地域の放課後デイサービスなど当該児童の居住地域に応じた多様な対応をしてきた。 また、新たに会議室を児童支援のための教室として環境整備した。多様な個性の児童に対応できる教育体制の確立という点では、今後も一層取り組みを続けていく必要がある。		○			今年度新たに児童支援のための教室や場所を用意したが、その活用については課題が残ることとなった。来年度は外部の専門家との連携を模索し、より個別最適な学習環境やSSTの指導の充実などについても学校としてできることを模索していきたい。

領域	対象	目　標	評価の観点	成果と課題					改善策・向上策
教育活動	教育課程	特例校としての特色を生かした英語教育のさらなる充実。	英語の新カリキュラム（2021より改訂）に基づき、単元・プロジェクト計画をふくらませて年間計画を各学年で立てることができたか。年間計画に評価項目を織り込み、単元・プロジェクトを運営できたか。	各学年で年間計画を作成することはできたが、作成された計画の質にかなりのばらつきがあった。授業の質も、学年ごとの年間計画の質に左右される傾向があった。各種あるリソースの的確な利用やカリキュラムに基づいた評価項目を織り込んでの単元・授業計画はともに定着してきており、さらに質の高い授業のための、教師のスキル向上・開発が求められる。		○			1年間の振り返りを 'Yearly Scope Making' として学年ごとに作成し、来年度の年間計画づくりの元にすることにより、より精度の高い年間計画を練り上げる。教師のスキル向上・開発のために、教務や主任教師による授業参観や授業研究の開催、外部の講師を招いてのワークショップの定期開催を目指す。
	教科指導	受験重視か英語重視かによって昨年度より導入した算数の新システムを拡充する。昨年度の4年生に加え、5年生にも英語での算数指導を導入。	英語算数の導入が、児童の英語の授業への満足度、または英語力向上につながっていることが見て取れるか。英語とともに算数の力もきちんとつけられているか。	昨年に続き、5年生のEnglish Mathも予定通り開講することができた。新たな課題として、学年が上がるにつれて算数に使われる英語の語彙の難易度が格段に上がってしまい、語学面での困難さが生じる場面があった。本来、英語とともに算数そのものの力も伸ばしていくねらいの中では、日本の英訳教科書のみの指導では課題が見られた。			○		2024年度では、副教材としてアメリカの小学校で実績のある日本式算数の英語版教科書を導入する。高学年のEnglish Mathの内容を補えるよう、週1の日本語算数の内容を改善する。
	児童支援 児童指導	児童支援コーディネーターを置き、特別支援教育を専門とする外部機関との連携やスクールカウンセラーとの連携による児童支援のさらなる充実。	児童支援コーディネーターを中心とした児童支援体制がうまく機能したか。	児童支援コーディネーターが支援の必要な児童の情報を集約し、スクールカウンセラーやサポートティーチャーと連携しながら必要な支援を考え、対応することができた。今後はさらなる関係機関との連携強化と個別支援の充実を図るための措置を検討していく。		○			外部機関とのさらなる連携によって、検査結果に応じた指導の充実やSSTなどのプログラムを校内でも用意できるようにしていきたい。
学校運営	保護者との連携	担任・副担任を中心とした保護者との連携の充実に加え、スクールカウンセラーを含めた相談体制の充実。	担任・副担任を中心に保護者との連携の充実させることができたか。スクールカウンセラーと連携し、学校への相談体制の充実が図れたか。	担任・副担任のみならず、状況に応じて教務や児童支援コーディネーター、スクールカウンセラーが保護者の悩みに対応できるよう体制を整えてきた。今後は学校発信の情報をよりわかりやすく整理していくようにしていきたい。		○			ミマモルメ配信、保護者掲示板、Google Classroomの使い分けをはっきりさせる。学校だより、Monthly News(学年だより)、Weekly updateの充実。
	地域との連携	相模原市教委と連携の上、風っ子展等、市内の学校と一緒に取り組めるイベントに参加する。また、他の教育機関と教育連携協定を結ぶなどして、地域での交流の機会を図る。	地域の人や市内の学校とのつながりをもてるような行事やイベントを実施できたか。	今年度は風っ子展に代わり、近隣の公立校と合同で「LCA北の丘センター小中学校児童生徒品展」に出展した。また昨年度に続き、東京家政学院大学、相原高校での校外学習を実施した。また、来年度以降に向け、北の丘センターや北体育館との連携の協定も結ぶことができた。		○			コロナが終焉に向かう中、ここ数年でできる限りの地域連携の基盤は整ってきた。今後は英語の地域還元や近隣の公共施設である北の丘センターや体育館との連携も模索していきたい。
	研修	社内他部署（英語教育・教材の開発部署）、校内の有資格者による実践的な研修を行う。 初任者に対する研修を複数体制で行い、実践的なアドバイスをしていく。	社内他部署（英語教育・教材の開発部署）、校内の有資格者による実践的な研修を行えたか。 初任者に対する研修を複数体制で行い、実践的なアドバイスをしていくことができたか。	春休みにwell-beingに関する研修の実施の他、英語の研修や国語の授業研修などは個別に進めることで実践的なものにすることができた。初任者研修については、計画を立てて進めたが、公開授業については予定通りに実施できなかった。来年度は全教員のスキル向上・開発のため、年間研修計画をあらためて整え、全教員の指導力強化に力を入れていきたい。			○		LCAの理念をより具現化した指導を行うために、諸外国で実績のあるPositive Descipline を導入し、年間を通しての計画的な研修を進める。また、校内の有資格者によるアドラー心理学をもとにした児童指導の充実についての研修も設ける予定でいる。